

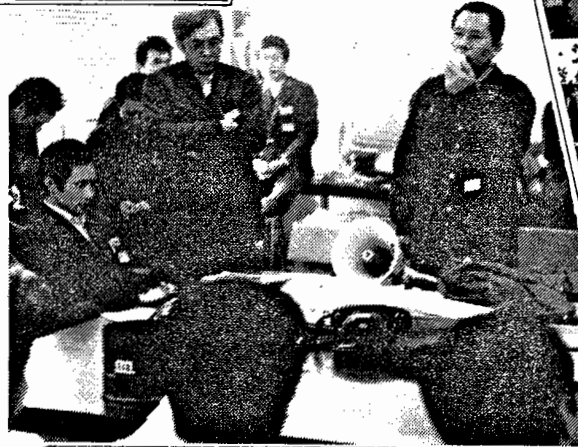
3月決戦闘争で 成田支部は更に強くなった

われわれ成田支部乗務員は、ジェット闘争拠点支部として、闘いの重要性を直接はだ感じながらこの闘争にたちむかった。この闘いを闘いぬいた動労千葉の団結力を誇示し、八一春闘をはじめ次の闘いにさらに結集しよう。

三月ジェット決戦拠点の乗務員として
電車運転士Bさん(40才)

国鉄当局および心無き人々からのあらゆる弾圧にうち勝って三月ジェット決戦ストを闘いぬいた動労千葉の団結にほこりをもっている。今後なを続く闘争にうち勝つて前進しなければならぬ決意をあらたにした。共にガンバロー。

動労千葉の団結の力を誇りとして共にガンバロー
電車運転士Aさん(50才)



三年有余にわたる三里塚ジェット闘争の蓄積の全てをかけて、拠点成田は決起した。三月決戦闘争の全過程にわたって、成田拠点は文字通り「労働連帯の闘う岩」であった。組合員は何度も何度も取場集会を積み重ね、「ハンドルを武器に向う、井筒土、運転士魂をうち固めていった。

日刊 動労千葉

81.3.28
No.701

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六(公衆)03-32272107

16日間の激闘の拠点 成田支部組合員の感想

三月闘争の勝利的完遂で、一層の組織強化をかちとる
日暮成田支部委員長

昨年十一月二六日から三日間、潮来において第四回定期大会の中で、八一年三月ジェット燃料輸送延長阻止闘争を組織の存亡をかけて闘いぬく運動方針を決定し、一、二月総行動の中で、三月闘争を闘いぬく組織力を着実に組織し二月一六日からの組合員一人一人との対話オルグを通して三月闘争にむけての自信を深めました。その対話オルグ期間中に当局は全国から二七名の助役機関士を集めて、二月十九日から佐倉、成田において線見訓練を強行してきました。この助役機関士はスト破りを目的とした要員であることははっきりしています。成田支部の一人一人の機関士は組合員として自信をもって、緊迫した情勢の中で闘いぬきました。他支部の動員者とともに整然と闘いぬかれたために、あせった当局はさまざま暴挙をもって三月闘争までも圧殺せんと計ってきたことは、われわれの目にはっきりとしました。支部組合員は、このような権力・公安官・職制を大量に投入し職場からの排除という形で介入することも考え、三月闘争のきびしさを自覚しながら、三月二日からジェット燃料列車の指名ストに突入し闘いぬきました。三月闘争を勝利的に完遂して、支部として感じたことはたくさんありますが、一点だけあげれば、「闘いを通してしか組織の強化は計れないこと。そして、直接闘った組合員ほど組織強化につながる」ということです。

勝利した三月決戦の地平を
うち固め、報復処分粉碎へ
機関士Cさん(38才)

三月決戦ストをみごと貫徹した。俺たち成田支部は、ジェット闘争の拠点を担いぬいて、みんなは「やったぞ」という勝利感で心を熱くしている。まる5日間、鉄道を戦場にハンドルを武器にして労働連帯を貫き通し、政府・国鉄当局そして動労「本部」革マルに対し大きな打撃を与えたという勝利感だと思ふ。「百害あって一利なし」の空港。軍事大国化と憲法改悪への道の軍事空港。この鈴木反動内閣にジェット延長をもってこたえた国鉄当局、動労「本部」革マルこそ不正義だ。三月一六日のジェット燃料列車への攻撃の事態は、ジェット延長に対する全人民の怒りと闘いの爆発だ。三・一六の事態こそは、政府・国鉄当局の理不尽なやり方に対する全人民の怒りの回答であるとおもふ。

労働人民の力で切り拓いた三月ジェット決戦の地平を打ち固め、報復処分粉碎・八一春闘勝利・三里塚二期着工阻止へと闘いぬこう。

三月決戦闘争で、動労千葉は更に強くなった
電車運転士Dさん(29才)

三月決戦を闘う中で、このストになによりも恐れる「本部」革マルと権力は一体となり襲いかかった。特に、「本部」革マルは労働者の仮面すらかなぐり捨てて公然たるスト破りに走り、権力は機動隊と公安を成田駅ホームにまで配置し、いまだかつてない弾圧体制をもってストつぶしを策した。だが、われわれ青年部全は、これらを見るにつれて逆に闘志もわき上り、「絶対勝利するぞ」と決意をうち固めた。

青年部は二月二八日から連日ろう城と昼夜にわたる防衛体制をつくり、原点到立ち帰って闘いぬいた。この闘いを通して動労千葉は更に強くなり、どんな闘いでも闘える力を持つたと思う。決戦ストを打ちぬいたわれわれの力に確信をもって、これから闘って行きたいと思う。又、「本部」革マルのようにコソコソとしゃほくられた生き方だけはしたくないと思う。